

## 巻頭言

## 「モノ作り」競争力を磨く」

## Reinforcement of “Manufacturing” Competitiveness

執行役員  
生産本部・大阪工場長

佐々木 一郎  
I. Sasaki



コマツが広義の“モノ作り”強化を目指し諸活動を展開してから数年が経過した。その成果の一部としてダントツ商品を世に送り出し、好評を得ている。コマツの定義している“モノ作り”とは、研究・開発から生産・販売・サービス及び、それらを支えている管理部門や協力企業・代理店までのバリューチェーン全体を包含していることは、既に皆さんの知る所だと思います。

生産部門も、上記活動の一環として“OX活動”（OXのOはOptimum-manufacturing; 最適生産の頭文字）を開始し成果を挙げてきている。“OX活動”の精神・狙い・進め方は下記の通りです。

- (1) 素材～組立～ユーザでの稼働・再販までを一気通貫で考え全体最適を図る。  
(生産・出荷からユーザ現場での稼働・定期修理・再販・廃棄されるまでの製品の一生を対象にする)
- (2) 現場・現物・現実の“3現主義”を徹底するとともに、あるべき理想の姿を設定し、理想と現実の比較により課題を見つけ出し改善していく。
- (3) 世の中の最先端・最高レベルの技術を取り入れ世界最高レベルのQCDを目指す。  
(広く世の中に目を向け情報を得るとともに、現状のレベルを正しく把握し世界最高にチャレンジする)
- (4) 活動の中心に若手を据えるとともに、活動の各ステップで部門長を交え討議する。  
(若手の育成と、真のコミュニケーションの活性化を狙う)

当初は部品単品だけをテーマにした活動が多かったが、現在はバリューチェーン全体を意識したテーマも増えてきたことと、活動を経験した若手の成長も見られ徐々に様になってきている。

大阪工場でも、全部門一丸となってOX活動を展開し、様々な課題に取り組んでいるが、あるべき姿を追い求めれば求めるほど、やるべき課題が積み上がってきていると言うのが実感である。又、世の中の技術が進めば進むほど、活動している人及びグループの実力が上がれば上がるほど、それに伴ってあるべき理想の姿も高くなっていくのだから改善活動に終わりは来ない。現在、これら抽出された課題に優先順位を付けて、一つ一つ愚直に改善を積み重ねている。

OX活動の様な改善活動は、生産部門だけでなくコマツの各部門で様々な形態を採って実施されているが、その原動力は何をさて置いても各人の“モノ作り”に掛ける情熱であり、その情熱を尊重し助長する職場環境である。これらを組織のDNAにおり込み永続させていきたい。

この“モノ作り”の情熱から生み出される改善の一つ一つが積み重なってパラダイムシフトを誘発する革新的な製品や生産方式等に繋がることを信じて改善活動を推進していきたい。